

トラック輸送情報（平成15年 1月分）

平成15年 4月11日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

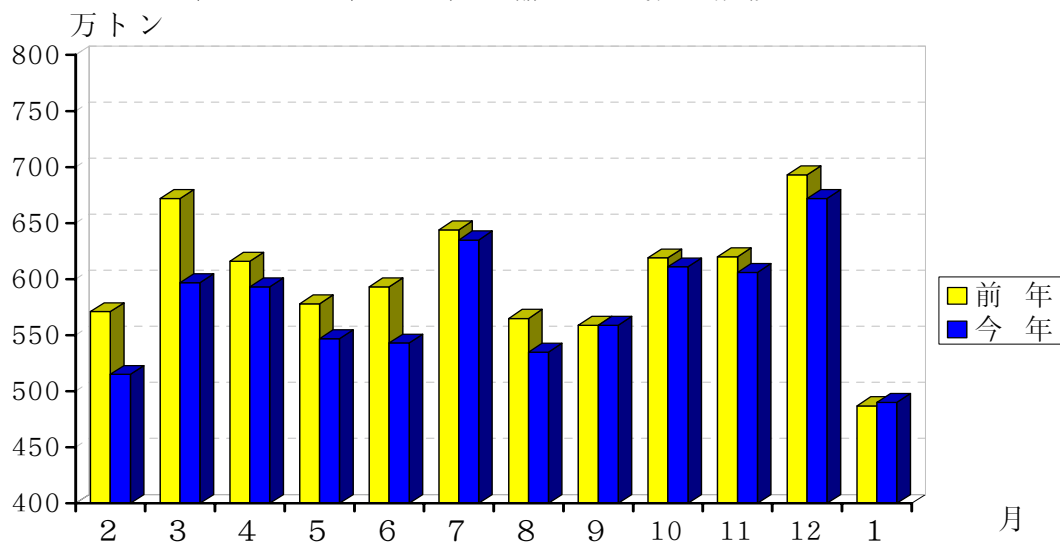
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

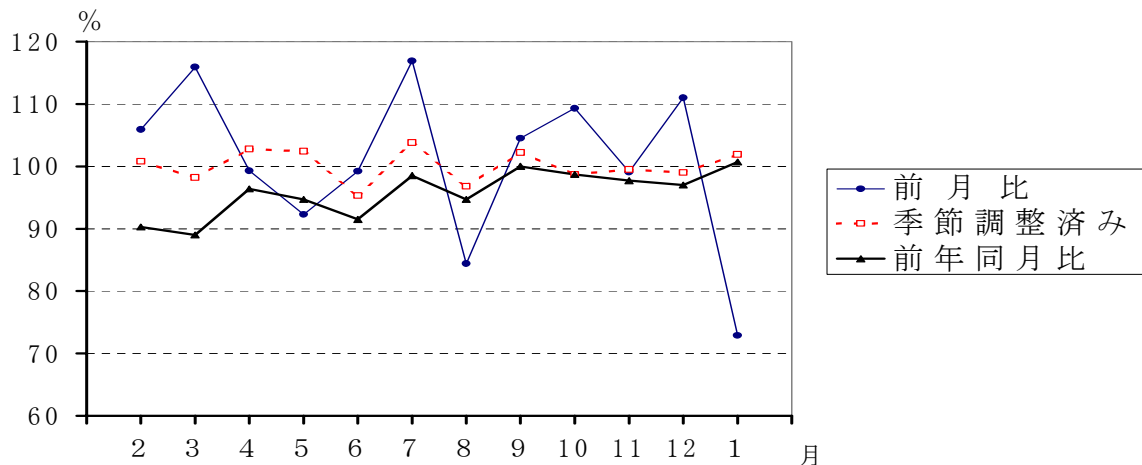
調査対象26社の本月の輸送量は4,901,356トンで、前年同月比100.7%、前月比72.9%（季節調整済み101.9%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、21.9日、稼働1日当たりの輸送量は223,806トンで、前年同月比96.1%、前月比76.6%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



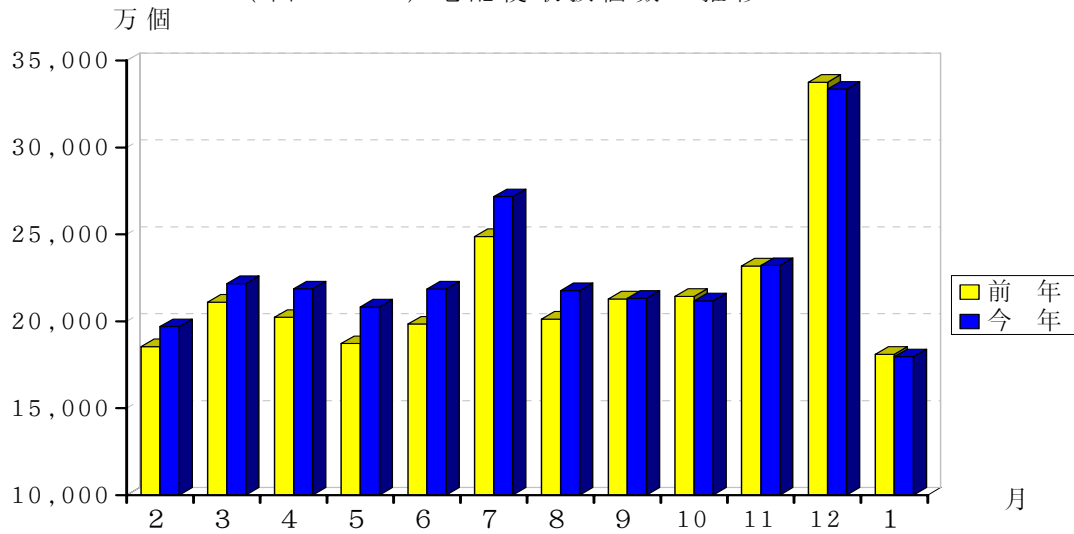
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



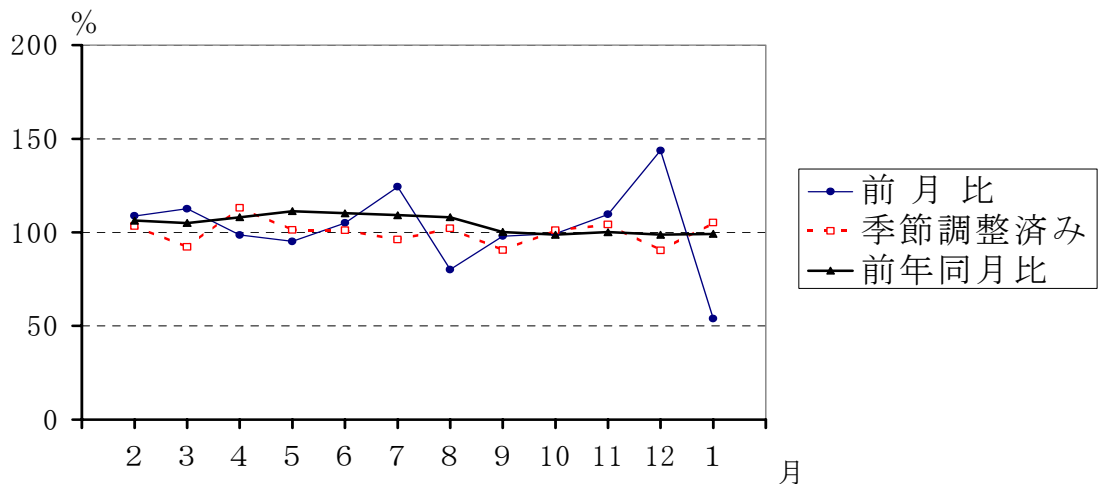
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い1個数は179,642千個であり、前年同月比 99.2%、前月比 53.9% (季節調整済み105.2%)であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1.1日減少し、稼働1日当たりの輸送量は、約6.9万トンの減少、前月比 76.6%であった。総輸送量については、先月と比べ約182万トン減少したため、前月比 72.9%であった。

宅配便については、約1億5392万個減少したため、前月比 53.9%であった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は1日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約0.9万トンの減少、前年同月比 96.1%であった。総輸送量については、約3万トン増加したため、前年同月比100.7%であった。

宅配便については、約141万個減少したため、前年同月比 99.2%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、歳暮期が終了したこと、また、年末年始休暇のため、前月と比べ、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、その他が全国において、季節的需要減を主な理由として減少している。

前年同月と比べても、減少傾向を示す品目が多いが、中でも、その他が全国において、デパート・スーパー、工場・生産地、商社・問屋からの貨物減及び不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減				著減	
前月に比べて	農水産品			11	4	2	米、野菜、青果物、水産物	東北、関東	4, 8
	金属製品		1	13	5	1	建設用金属製品、電気製品、工具	関東、北陸信越、近畿	4, 8
	機械		1	11	6	2	自動車部品		
							産業機械、機械部品、家電製品	北陸信越、関東、中部、近畿	4
	化学工業品		1	11	8	2		東京、大阪、中国	4
							化学薬品、塗料、紙・パルプ	関東、北陸信越、近畿	4, 7, 8
	繊維工業品	1		11	9	2		関東	4
							織物、洋服	関東、近畿	4
前年同月に比べて	食料工業品			6	11	4	製造食品、加工食品、飲料	全国	4, 7, 8
	日用品			6	12	3	一般貨物、雑貨、書籍・印刷物	全国	4, 8
	その他			10	5	6	宅配貨物	全国	8
	農水産品			11	6		米、農産物、青果物、畜産物	東北、関東	4, 9
前年同月に比べて	金属製品			15	4		建設用金属製品、工具	近畿	4
	機械		6	11	2		機械部品、自動車部品、農機具	関東、中部、近畿、中国	4
							家電製品	関東	4, 7, 9
	化学工業品		5	11	5		塗料	北陸信越、関東、中部、大阪	4, 7
							紙・パルプ	関東、北陸信越	4, 9
	繊維工業品		2	15	5			関東	4
								関東	4
	食料工業品	1	7	10	3		製造食品、加工食品、飲料	東北、関東、四国	2, 5, 7
前年同月に比べて	日用品		4	9	7		一般貨物、雑貨	全国	4
							衣類、玩具、文具、印刷物	全国	9
	その他		4	11	4	1		全国	1, 2, 4, 9
						宅配貨物	全国	2, 4, 5, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 871社 / 調査対象事業者数 1,110社）の輸送量は、前年同月比101.1%、前月比 87.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.1%	104.2%	98.9%	100.6%	98.2%	97.8%	104.4%	105.5%	100.4%	97.0%	122.1%
前 月 比	87.9%	87.2%	83.6%	89.2%	83.7%	96.6%	87.5%	85.9%	91.8%	87.7%	87.3%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、降雪期に伴う「廃棄物(排雪)」の需要が増加したが、季節的な要因による公共工事の減少に伴う関連品目の輸送減、長い正月休み等による稼働日数の減少もあり、全体的に低調に推移したため、対前月比87.2%であった。また、対前年同月比104.2%であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月は横ばいにあるが以降は下降傾向にあるものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、年末の繁忙期が終了したことから「食料工業品」の輸送量が減少し、また、季節的な要因(降雪、積雪)により、「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送量も減少した。このため、対前月比は83.6%であった。対前年同月比は98.9%であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共にほぼ横ばい傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、正月休みのため、全体的に対前月比89.2%と輸送減であり、中でも「野菜・果物」「繊維工業品」「日用品」の輸送量の減少が目立ち、対前月比89.2%であったが、対前年同月比は、100.6%とやや増加が見られた。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、新規荷主の開拓、季節変動による「化学工業品」「コークス・その他石炭製品」の輸入増による増加が見られたものの、年末年始休暇が増えたことによる輸送需要や稼働日数の減少、冬期間の工事の減少、景気低迷や荷主の都合による生産調整等の理由で全体の輸送量が減少した。このため、対前月比83.7%、対前年同月比も98.2%となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、季節的需要で「その他の農産品」「日用品」「取り合わせ品」が輸送増となっている他は、年末年始等による稼働日数の減少が大きく、また、地場産業の低迷により「機械」「その他の窯業品」等の輸送減があったため、対前月比は96.6%と減少し、また対前年同月比も97.8%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共にほぼ横ばいにある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、年末に輸送が集中したため、その反動により「食料工業品」「日用品」「その他の製造工業品」等を中心に輸送量の減少があったことから、対前月比87.5%となった。対前年同月比は104.4%と上昇している。今後の輸送見通しは次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、正月休みにより稼働日数が通常の月に比べ減少していること、また、地域においては大雪により輸送の障害があったため、輸送量は対前月比85.9%の実績となっている。ただし、対前年同月比は105.5%であり、最近3ヶ月分も同様の傾向を示している。一部において厳しい状況にあるものの、輸送に関する景気は全体的にやや良好になりつつあると思われる。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、正月休みによる稼働日数減により「穀物」「揮発油」「その他の石油製品」「輸送用容器」「取り合せ品」が減少、また、季節的要因により「野菜・果物」も減少したため対前月比91.8%と減少した。なお、対前年同月比は100.4%とほぼ横ばいであった。</p> <p>今後の見通しは、次月はほぼ横ばいであるが、以降は上昇傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、地域により同一品目の輸送の増減があるものの、全体的には正月休みによる稼働日数の減少及び季節的需要による「食料工業品」「日用品」等に輸送減が見られたことから、対前月比87.7%となり、また対前年同月比も97.0%と共に減少した。</p> <p>今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともに僅かではあるが上昇傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、年始休暇により車両の稼働が低下し、また貨物全般において需要の落ち込みが見られた。特に「水産品」や飲料等の「食料工業品」及び切花等の「その他農産品」など、正月関連貨物が減少した。しかし、県内景気が多少改善している事もあり、対前月比では87.3%と落ち込んだものの、対前年同月比では122.1%の実績だった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	減	0	5	1	0	0	0	0	1	0	0	7
2. 野菜・果物	増	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	4
	減	2	2	4	2	1	0	0	3	8	0	22
3. その他の農産品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	5
5. 水産品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
6. 木材	増	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	4
	減	6	2	0	0	0	1	1	0	2	0	12
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
10. 砂利・砂・石材	増	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	10	5	0	4	0	0	4	0	3	0	26
11. 工業用非金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	3	1	0	0	0	0	1	0	3	0	8
12. 鉄鋼	増	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	3	0	2	0	2	2	0	1	0	10
13. 非鉄金属	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	6
14. 金属製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	減	1	2	2	3	0	1	0	0	2	0	11
15. 機械	増	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	4
	減	1	1	2	1	2	2	1	0	3	0	13
16. セメント	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	1	3	0	2	0	0	2	0	3	0	11
17. その他の窯業品	増	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	2	2	0	1	2	0	1	0	3	0	11

